

# 外国人労働2万6086人

## 医療・介護事業所数も増加

厚生労働省は1月25日、2018年10月末現在の外国人雇用状況を発表した。医療・福祉事業所で働く外国人は、9913カ所（前年比14%増）に2万6086人（20%増）いることが分かった。

日本では働く外国人は、全体で146万463人（14%増）となり、過去最多を更新した。高度外国人材や留学生、技能実習生の受け入れが進んだ。

外国人を雇用している事業所は、21万6348カ所（11%増）。規模別では、30人未満の事業所が全体の6割を占めた。

産業別にみると、製造業が4万6254カ所・43万4342人で最も多い。医療・福祉のうち、社会保険・福祉・介護事業は6510カ所・1万6678人だった。

国籍別では、中国38万9117人（全体の27%）、ベトナム31万6840人（22%）、フィリピン16万4006人（11%）の順に多い。増加率はベトナムが32%で最高だった。

（榎戸新）